

次代につなぐ

その時に思ったのは、消防大学校で出会った同期生は、いろいろな職務を経験しており広い知見を持った方が多く、警防の枠でしか考えられなかった自分が未熟であったと痛感したこと、そして、当時、勤務していた消防署の中隊長との会話で、消防におけるスペシャリストとゼネラリストという話を思い出し、その時からゼネラリストという言葉に氣になるようになったことです。

会話の中では、「一般的にスペシャリストは『狭く深く』、ゼネラリストは『広く浅く』といったイメージで解釈されているようだが、それは大きな誤解でゼネラリストになるには、まず『一芸』に秀でることが大前提であるという。ある分野でスペシャリストになり、そこで得た経験則をほかの分野にも活かして、そこでもスペシャリストになる。そうしてはじめて『広く深い』、本来の意味でのゼネラリストになることができる」というものでした。

還暦までもう少しの今の私が思うことは、今の仕事を一生懸命にすることでゼネラリストとして、最後には消防のスペシャリストとなるべく職務に邁進したいと思っていることと、そのきっかけとなったのが消防大学校への入校ということです。】

私は消防のスペシャリストになれただろうか？

その判断は、これまでに関わった皆さんに委ねるとして、何はともあれ、いろいろな場面で人と出会い影響を受けて、導いてもらえたことに感謝しています。

そして、私の消防最後のステージを北消防署長として勤務でき、発展していく大阪の先頭に立つ北区を管轄する消防署で、一つひとつの災害や案件に丁寧に向き合い職務に邁進してくれたすべての職員に敬意を表し、心から感謝を申し上げます。200名を超える職員と組織力を有する大阪消防で唯一無二の大阪一、日本一の消防署で勤務できたことは署長冥利につきます。終わりにければすべてよし。

最後に、職員の皆さんに感謝申し上げます。本当にお世話になりました。ありがとうございました。

皆さんの今後のご活躍をお祈りいたします。



～未来の消防を担う 皆さんへ～

中央消防署長 消防正監
中脇 進一



大阪市消防局に勤務し42年という長い年月が過ぎ、今年度末をもって退職を迎えるにあたり、この度、これまで関わってきた消防という仕事について改めて振り返る機会をいただきましたこと、また、名高く伝統ある大阪消防誌にこのような寄稿の機会を賜りましたこと、まず以って心より感謝申し上げます。

これまでの月日を振り返ると、良き上司、先輩、同僚、後輩職員に恵まれ、共に過ごした日々が私にとってかけがえのない宝物であり、誇りです。消防という仕事に誇りをもち、自らを鍛錬し、共に災害に立ち向かうという大きな目標に向かって取り組んだあの日々は、決して忘れることはありません。

今まで多くの災害現場に出動し、また消防局においては各種事務に従事し、自らの使命を果たすべく、そして市民の生命、身体及び財産を守るために、仲間たちと共に努力してまいりました。思い返せば、真夏の厳しい暑さの中、全国消防救助技術大会への出場を目指し、共に汗を流した日々。真冬の深夜の炎上火災現場では、放水の水が凍りつく寒さの中で全身ずぶ濡

感謝

北消防署長 消防正監
松下 龍二郎



1983年に愛媛県から関西汽船(今は別会社)のフェリーで弁天埠頭(今は使われていない)に到着してから私の消防人生が始まりました。

そして、2025年に北消防署長として42年間の消防人生を終えます。

皆さんに感謝申し上げます。

「次代につなぐ」

すでに、皆さんは私が42年間で経験したこと、見て、聞いて、感じたことを超えるいろいろなことを行っており、大阪市消防局を前へ前へと進めていると思っています。

出廻らしの私から皆さんに何かを伝えることなど烏滸がましいと思っています。

ただ、何か思いを書いてほしいということでわざわざ紙面を割いていただいているので雑多で拙い文章で申し訳ありませんが寄稿させていただきます。

「消防は何でもありやけど 何でもありちゃうねん」

この言葉を消防士の時に言われ(誰に言われたかは覚えていない)、何を言っているのか分からない時代、何となく分かった気だった時代、すべてを分かりきった気だった時代、結局、42年間で何ができただろうと思ひ返しています。

私は、一昨年から消防大学校学友会副会長を務めており、機関紙「学友会報」に寄稿した巻頭言の一節を紹介します。

【私が消防大学校警防科を希望したのは、それまでに警防本部の方面隊に在籍し、大阪市域において数多くの火災や救助などの災害を経験したことを生かすため、そして、警防科の目的が『警防業務に関する高度の知識及び技術を専門的に修得し、警防業務の教育指導者等としての資質の向上を目指します。』となっていることから警防のスペシャリストを目指すためでした。

しかしながら、卒業後には所属内で予防担当や庶務担当を経て大阪市消防学校(現大阪市高度専門教育訓練センター)勤務となり、その後の仕事は私が思い描く警防のスペシャリストへの道とは大きく変わっていきま

【略歴】
S58.04 消防学校入校
S58.10 西消防署
H02.10 都島消防署
H03.10 警防部司令課
H08.10 天王寺消防署
H12.04 消防学校
H17.05 総務部総務課
H17.05 大阪市消防振興協会派遣(公益)
H18.04 浪速消防署救助司令
H20.04 危機管理室担当係長
H22.04 消防局総務部担当係長
(施設・装備担当)
H23.04 消防局予防部予防課担当係長
H24.04 消防局警防部司令課副参事
兼担当係長
H25.04 中央消防署副署長
H27.04 消防局総務部施設課副課長
H29.04 旭消防署長
R02.04 消防局警防部計画情報担当課長
R03.04 消防局警防部警防課長
R04.04 浪速消防署長
R05.04 北消防署長

れになりながら、長時間の活動を終え引き揚げる際に同僚の顔を見ると、煤だらけで全身寒さで震えていた。「大丈夫？」と声をかけると、同僚は私の顔を見て笑っていた。「中脇さんも鼻の穴が煤で真っ黒ですよ」と言われ、また自身も膝がガクガクと同じように震えていた。「早く署に帰ろう」とお互いに声をかけ帰路についたあの日。そして、想像をはるかに超えた被害を目の当たりにした阪神淡路大震災や東日本大震災での被災地の光景は今でも忘れることはできません。

その中で、私は係長時代から、震災や風水害などの大規模災害に対する各種計画の整備や運営に携わってきました。特に、平成16年の緊急消防援助隊の法制化に伴い整備した、大阪府下のすべての消防本部が参加する緊急消防援助隊大阪府隊の応援・受援計画の策定及び運営に携われたことは、今でも心に残る大きな成果であると思っています。この計画に基づき実施された緊急消防援助隊大阪府隊の、平成30年7月豪雨災害(西日本豪雨)や令和6年能登半島地震等の災害派遣は、大阪府下の消防本部が一丸となって大災害に立ち向かうことができ、今や全国からも高く評価されています。この事務に携わった諸先輩方、同僚、さらにはブロック幹事消防本部、そして多くの消防本部の方々のご尽力の賜物であり、迅速な被災者救助に大きな影響を与えていると実感しています。

しかしながら、幸いにもここ大阪では、震災等の大きな災害は発生しておらず、震災計画や受援計画については、どこまで迅速に対応できるのかは分かりません。震災訓練等で検証等を行っていますが、新たな大規模災害を経験するたびに、災害の種類や規模によって、改善を図り、新たな対策が必要になることがあります。そのためには、私たちが達成したことだけではなく、次代を担う皆さんがさらに充実した体制で災害に立ち向かっていけるよう、知恵と力を結集することが求められます。

特に、南海トラフ巨大地震のような未曾有の大災害が起こった場合、私たち消防の使命は市民の盾となり、その命を守ることにあります。その時、後輩の皆さんが立派にその役割を果たせるよう、日々の研鑽を積んでいくことが非常に重要です。私たちの時代は、できる限りの努力をし、少しでも災害に強い体制を築いてきたと自負しています。しかし、これからの時代を担う皆さんには、さらにその先を目指して成長し続けてほしいと願っています。

私がこの職に就いてから多くの経験を積むことができたのは、先輩方からの教えや仲間たちとの絆、そして何よりも市民のために尽力するという強い使命感があったからです。消防という仕事は、時には命を賭けて行動しなければならない場面もあります。しかし、その一方で、命を救ったときの喜びや、感謝の言葉を受けたときの充実感は、何にも代えがたいものです。だからこそ、厳しい環境でも前向きに取り組むことができるのだと思います。

これからの消防局を支える後輩職員の皆さんに対して、心からの期待と激励を送りたいと思います。



「感謝」

西成消防署長 消防正監 植松 幸広

今回、このような寄稿の機会を頂いたことに感謝申し上げます。
寄稿するにあたり、改めて自身の消防人生を振り返ってみると、41年間の勤務で前半の約20年間は現場対応で、後半の約20年は、現場からは少し離れてサポートする側が多かったです。



【略歴】

S59.04 消防学校入校
S59.10 住之江消防署
H02.10 中央消防署
H03.10 警防部司令課
H09.10 東成消防署
H13.10 総務部総務課
H19.04 浪速消防署救助担当司令
H21.04 消防局総務部担当係長
(人事厚生担当)
H23.04 消防局総務部人事課担当係長
H25.04 消防局警防部司令課副参事
兼担当係長
H26.04 西成消防署副署長
H28.04 消防局総務部人事課副課長
H30.04 消防局総務部人事課長
R02.04 福島消防署長
R04.04 大正消防署長
R05.04 西成消防署長

前半は昭和59年10月に住之江署に配置となり、消防士時代はひたすら訓練に明け暮れていました。
引揚救助訓練で近畿大会に出場した際に、先輩から「近畿で一番の訓練すれば全国に行けるんや」と言われ、毎当務3食前に、訓練塔を10本登はんしていましたが夢破れました。土長に昇任後、方面隊で6年間勤務した際は相当な数の炎上火災に出場し、厳しい先輩方から、筒先配備、情報管理等、災害に勝つため如何に現場をコントロールするかを学ばせていただきました。

後半は、平成13年10月に総務課庶務で6年、人事課で8年、署長として5年。その間に、浪速救助司令、司令課副参事、西成中隊長として勤務しました。

浪速では個室ビデオ店火災で最先着の救助隊として出場し、到着後すぐに2名を生存救助したものの、結果的に16名の方が亡くなり、いろんな意味で良い経験と悔しい経験がありました。西成では、簡易宿所が全焼する火災で、隊員5名が建物内部で崩落にあい、うち1名は体幹部の圧迫骨折で長期の入院となり、自分自身で情けなく、また申し訳ない気持ちで一杯でした。

総務課庶務で約6年間勤務した際には、初めての毎日勤務で、悪戦苦闘の日々が続き、仕事は溜まる一方で、終電近くに帰宅することも頻繁でした。そんな時でも温かく迎えてくれた家族には、感謝しかありません。また、職場では自分の担当でも無いのに、手伝ってくれた仲間感謝の気持ちで一杯です。

その時期にある上司から「他課との調整は、電話で済まさず、顔見て話をしきなさい」と教えられました。正直、昼間は他の雑務に追われ、自身の業務がほぼ出来ず、電話が便利だったのですが、なぜかその言葉が耳に残って、調整の際は、直接顔を見て仕事することを心掛けました。

そのおかげか、その後仕事をする際に、すごく大事にしていたいただいた気がします。名前だけでなく、声だけでなく、顔も知っていたいただいた事で、仕事がし易くなったと年を取るごとに感じました。今の時代では、きっと非効率的なのでしょうが…。

総務課では、渉外、人権、市会や、表彰事務。人事課では人事制度や給与制度の事務を担当し、各業務を通じて、消防以外の沢山の方と仕事させていただきました。いろんな知識や経験を重ねたことで人として、少しは成長できたのかなと感じております。

人を助けたくて消防士を目指し、何度も災害現場に出場し自信をもって活動していたのに、40歳手前でまったく現場から離れることになり、自分は何をしているんだろうと自問自答しながら、日々業務に追われていた気がします。

でも、いつしか現場で活動している仲間のサポートをしているのだと自分に言い聞かせ、「置かれた所で咲いてやる」と思い仕事しました。

そして、さらに仕事を重ねていくうちに、どんなことが起こっても、それなりに判断し対応できる自分がいました。

そして、約40年勤務する間、本当にいろんなことがありましたが、しんどい時や辛い時も、その時々で消防士という同じ思いをもった、素晴らしい同僚、後輩と出会え、一緒に仕事出来たことが一番の財産だと気付きました。

災害現場において隊で活動するのと同じように、毎日勤務の仕事も、自分一人で出来ているのではなく、お互いに協力して一つの事業が成り立つのだと感じています。

後輩の皆様へ、消防の仕事も幅広くあります。どんな担当になっても大阪市消防局の一員です。一つひとつ丁寧に仕事することで、人を助けるという目的に繋がっていることを感じてください。

どうか、これからも大阪消防の伝統を皆さんの力で丁寧に進化させてください。

私は消防人生でかけがえのない経験と、喜びも苦労も分かち合えた素晴らしい仲間と仕事が出来たことが本当に良かったです。

そして、その間、私を支えてくれた家族に感謝です。

大阪市消防局、心の底からありがとうございました。





令和6年度 消防救助技術練成会 令和6年11月21日～22日

令和6年11月21日・22日の2日間、高度専門教育訓練センターにて、令和6年度消防救助技術練成会を実施しました。例年は3月に実施していますが、大阪・関西万博の開幕を令和7年4月に控えた今年度は上記日程で実施し、約1400名の隊員が救助技術を披露しました。

本練成会は各種災害現場において、安全・確実かつ迅速に対応するための救助技術及び安全管理意識を向上させることを目的として実施しており、今回で52回目の開催となります。

出場隊員には、この消防救助技術練成会を通じて、本会の目的である救助技術及び安全管理意識の向上はもちろんのこと、目標に向かってひたむきに努力する精神力を養い、今後の職務に繋げていただければと考えています。

練成会当日まで、日々厳しい訓練を重ねてきた隊員達は、来場した家族や職員など多くの応援の声を背に受け、緊迫した本番の空気のなか安全性、確実性、迅速性を競いました。

優秀な成績を収めた隊員の表彰は同日実施されました。あわせて、表彰ブースでは令和6年能登半島地震へ派遣された緊急消防援助隊活動状況の写真も展示し、日々の地道な訓練が、大災害時における救助活動につながっていることを、来場者の方々にも改めて感じていただけたものと思います。

最後になりますが、予選会の部の上位入賞者は、本年7月19日（土）に実施される第53回消防救助技術近畿地区指導会に当局の代表として出場します。

今後それに向け、強化訓練が本格的に始まりますので、隊員が救助技術を遺憾なく発揮できるよう、皆様のご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

企画部 消防の「いま」をここから発信！

全国の消防本部に対して、消防庁等の関係機関の動向をはじめ、各消防本部の取組や本会が行っている事業について発信しています。『全国消防長会会報』の他、『ほのお』や『週間情報』もここで作成しています。



Services 事業紹介



全国消防保険サービス(株)

職員や家族の安心を支えます！

全国の消防職員やその家族に対して、職場と日常生活の両面での安心を提供するため、消防職員損害保険をはじめとする各種保険を取り扱っています。ご相談内容に応じて、適切な保険商品プランを提案しています。

事業部 課題解決の根拠はここから！

7つある事業推進委員会を中心に各消防本部が抱えている課題等を抽出し、必要に応じて国に対して要望を行っています。私が主に担当している業務は警防・防災に関することですが、全国消防救助技術大会に関する事務も担当しています。これは今後の救助技術大会の方向性を決める重要な事務になります。



Work 私の職務



総務部 影の立役者！

全国の消防長が集まる全国消防長会総会や役員会、常任理事会の企画・運営を行っています。また、各支部や消防本部間での連携が円滑に進むように調整を行っています。

Fire Chiefs' Association of Japan

～全国消防長会～



全国消防長会の仕事について
紹介してくれるのは
大阪市消防局から派遣中の
この人！



事業部 事業企画課 警防防災担当係長
石川 哲平

全国消防長会は、名前に「全国」と付きますが、国の組織ではなく、消防本部が相互に協力しての意思統一を図るために設立された組織です。

この職場で働く職員は、全国から派遣された消防職員を中心に構成されており、消防行政の今後について、日々意見交換を行っています。

また、事業推進委員会をはじめ、全国各地で開催される会議に参加し、消防本部が抱えている課題に向き合うことで、より良い消防組織運営を目指しています。



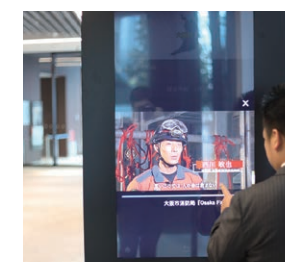
Workplace 私の職場

新事務所で業務開始！

■平成16年から業務を行っていた千代田区麹町の事務所が令和6年10月に港区虎ノ門に完成した日本消防会館内に移転しました。日本消防会館の周辺には地上49階建て虎ノ門ヒルズステーションタワーやアメリカ大使館など、都心部を代表する建物が並んでいます。

消防の沿革や大災害はここで知れ！

■1階には日本消防防災情報センターがあり、デジタルサイネージにより、消防防災に係るさまざまな情報を展示しています。私が企画課（広報）で勤務していた際に作成した大阪市消防局のPR動画等も視聴することができます。



ご存知ですか？慰霊碑への参拝はこちらへ

■14階（屋上）には全国消防殉職者慰霊碑が安置されています。明治5年以降の消防殉職者の御霊が奉安されており、来館者は自由に参拝することができます。

日々奮闘！全国の精鋭達ここに集まる！

■7階から12階には消防関係団体のオフィスがあり、全国消防長会の事務所は12階になります。同じフロアには一般財団法人全国消防協会・全国消防保険サービス株式会社があります。

